

令和7年度 動物実験・遺伝子組換え実験委員会 議事要旨

令和7年6月24日 16:30～16:49 臨床研究部研修室

出席者（敬称略）：大矢（委員長）、坪、坂野、曾根（書記）

（1）令和7年度委員の承認について

令和7年度の委員は以下のとおり承認した

委員長	大矢 佳寛	（自己免疫疾患研究室長）【実験動物管理者】
委員	坪 尚武	（臨床研究部長）
	坂野 和彦	（企画課長）
庶務	曾根 恵一	（企画課 契約係）

（大矢委員長）

それでは、令和7年度動物実験・遺伝子組換え実験委員会を始めます。

まずは、議題（2）昨年度実施報告についての報告です。

動物実験が4題と遺伝子組換えが1題ございます。

#2024-1 鉄欠乏による糖尿病性腎症進行機序の病態解明

（今澤医師不在のため、報告を代読）

研究実施のための時間が確保できず研究は実施出来ていない。動物の搬入もありません。

令和7年度に実施する予定はなく、中止する。

#2024-2 細胞外マトリックス（ECM）を利用した新たな豚ランハンゲルス島の研究

（坪 医師）

研究実施体制が整わないため中止としました。

今後についても体制が整わないため中止とします。

#2024-3 大動物における効率的な豚ランハンゲルス島（豚島）分離に関する研究

（坪 医師）

ビーグル犬1頭を使用し、豚島分離実験を行いました。最新の分離方法で効率の良い豚島分離が可能でした。

今後、研究に追加結果として発表予定です。

2024-4 制御性T細胞による特異的免疫制御の研究（大矢医師）

2024-5 （上記課題の遺伝子組換え実験報告）

（大矢医師）

動物を使い、抗原特異性を有する制御性T細胞の利用法を開発しました。

成果については、報告書にありますとおり、学会発表や論文を作成いたしました。

2024-5 番は遺伝子組換え実験となります。遺伝子組み換え動物は、TCR Tg 約 420 匹、MHCmutant 約 380 匹を使用しています。

以上となります。

（大矢委員長）

続きまして、議題（3）今年度実施申請について順に。

動物実験が1題と遺伝子組換えが1題（同一実験内の遺伝子組み換え実験申請）ございます。

2025-1 制御性T細胞による特異的免疫制御の研究

2025-2 （遺伝子組換え実験申請）

（大矢委員長（研究者））

遺伝子組換え動物を用いて動物実験を行う実験です。申請にございますように制御性T細胞の産生方法、誘導方法についてはマウス由来の血液系細胞のほか、未分化骨髄細胞も用いて効率的な制御性T細胞の誘導方法を探索します。T細胞の反応が抗原特異的なものか否かを判断するために、既知の認識抗原に応答性をもつ抗原特異的なT細胞レセプターを発現するマウスT細胞を用いる必要がございます。

なお使用する遺伝子組み換えマウスは、個体として繁殖し他の動物への感染や有害な病原菌は持つようなことはございません。

（大矢委員長）

そのほか何かございますか。

（坂野委員）

直接関係するわけではないのですが、こういった実験でいずれ特許を取得するといったことはあるのでしょうか。国立病院機構の臨床研究業績評価において、高い点が得られることがございます。

研究が進めやすい環境づくり等で協力して、病院の評価を高めていけたらと考えております。

それでは以上で動物実験・遺伝子組換え実験委員会を終了させていただきます。

ありがとうございました。